

第118回日展

第4科（工芸美術）審査所感

審査主任 三田村有純

今までの日展ではなかった表現や新素材の作品の応募があり、日展の工芸美術が変わりつつあるのではと思わせるものであった。伝統的な技術を自己のものとし、豊かな感性で新たな道を開こうとしている作品群に、力作が多く見られたことは、未来を考えると頼もしいことである。

審査には慎重に時間をかけて丁寧に作品と向かい合い、進行した。残念ながら入選に至らなかった中にも、見るべきものがあったことを記しておく。

特選審査は、2日間にわたり、話し合いを重視し行った。審査員が選んだ40点近くの特選候補はいずれもエネルギーに溢れ、優劣をつけにくいものであった。特に優れている所についての意見表明を行いながら、絞り込み、最終的には平面5点、立体5点となった。素材の内訳は陶芸2点、金属2点、漆芸2点、染色3点、織1点であり、工芸美術の素材の可能性と新たな美の創造世界を表出する秀作揃いである。

搬入数 587点

入選数 457点

(内新入選) 33点